

# どてらごや

## 初不動のお祭り 平成20年1月28日

**前**日には土寺小屋の参加生にお手伝いをいただきお餅つきを行いました。その時の愉快的なスナップがありますので掲載します。

毎年投げ餅は「まる子」という小餅切りの道具を使って切り、それをみんなが丸めてくれています。このスナップはその「まる子」の中につきたての熱々の餅を住職が投げ入れて



いる瞬間です。(写真左)まるで住職の手から餅が「発射」されているように見えませんか？

前日のお餅つきもみんなワイワイ言いながら楽しくお手伝いいただきました。

**初**不動は毎年法要と法話を庫裡で行い、その後本堂前でお餅投げを行います。今年のお話は「いただきますはだれに言いますか？」でした。この話は昨年紀美野町の中学校で講演した内容で、お父さんやお母さんに言うものではないというお話です。内容は.....

私たちは食事の前に「いただきます」、食後は「ご馳走さまです」と言います。子どもたちに「昨日何を食べましたか？」と聞くと、「おでん」と答えてくれました。おでんの中の何を食べましたか？と聞くと、「たまご、だいこん、牛すじ」と答えてくれました。私たちは誰かのために働いたり、誰かの役に立つ作業をすれば報酬が頂けます。会社に行けばお給料が頂けます。でも、たまごやだいこんや牛すじを食べればあなたの栄養となりエネルギーとなり命になるのに、鶏や牛や大根は一円ももらっていません。お父さんが働いたお給料でお母さんが鶏や牛や大根などのお買い物をしてお金を支払っても、それはお店や卸業者や生産者に手渡されて鶏や牛や大根には一円も渡りません。それどころか牛が解体屠殺場に行くとき涙を流すと言います。鶏は狭

いケージの中を精一杯羽ばたいて出ようとしなれないと言います。大根も花を咲かせ種を蓄えるまで大地に精一杯根を張ってなかなか抜かれまいとふんばります。これらの命をいただくのですから、自然に「いただきます」とでてくるのです。そして食べ終わればわざわざ「いただいた命で馳せ走ることができません」という意味の「ご馳走さまです」と言って、感謝の言葉で締めくくるのです。

以前は「たべる」を「喰」と書きました。この字は人がひざまずいて食べ物を口に運んでいるようすからできた象形文字です。この文字が変化して「命」と言う文字ができています。

ちなみに、鶏や牛や大根が一円ももらわず人に食べられて、その人の命をつないでいる行為をインドの古い言葉で「ダーナ(布施)」と言います。このダーナは英語圏では「ドナー」となります。今では医療用語の「ドナー(提供者)」として普及していますが、本来はなんの報酬も求めず、他を生きることが語源なのです。

私たちは日々無数の食べものの「ダーナ(布施)」という行為で自分の命を生かさせてもらっているのです。だから「いただきます」は毎日の食卓にのぼる食べものに対して言っているのもあって、お父さんやお母さんに言うのではないのです。

以上のような法話でした。



法話の後、檀家総代さん区長さん方に本堂でおつとめいただき、その後少し小雨模様になってきたため急いでお餅投げをおこない、賑わいました。

**土寺文庫 開設お知らせ**  
土寺小屋が開催されている不動寺の庫裡には、住職が今まで読んだ本の一部が自由に読めます。持ち帰って読んでも不動寺で読んでも結構です。  
宗教系の月刊誌から一般文庫本まで、興味のある方はいつでもご連絡下さい。なお第4土曜日の土寺小屋開講時には自由にご覧頂けます。  
また土寺小屋ではお写経と現在般若心経の解説中です。この土寺小屋にも自由に参加できますので興味のある方はご参加ください。